


ANA 総合研究所
インターン生
対談日 2024 年 11 月 26 日



オーバーツーリズムについて 考える

ヴェネツィア（イタリア）のカ・フォスカリ大学大学院から、ヴァレンティーナ・クアドラーニさんが ANA 総合研究所のインターンシップに本年 10 月から 11 月にかけて参加しました。今、観光業界で話題となっているオーバーツーリズムがヴェネツィアでは社会問題化しており、その様子を日常的に目の当たりにしていることから、滞在期間中に日本の有名観光地を訪れて実態や課題について考察してもらいました。インターンシップの締めくくりに、東海大学観光学部の崔載弦准教授と対談した様子をご紹介します。

世界にはオーバーツーリズムに抗議してデモが発生している都市もあります。日本でもオーバーツーリズムが問題となってきました。では、実際にどのような現状なのか。また、どのような対処をすべきなのか。ヴェネツィアから来日していたヴァレンティーナさんが、イタリアの現状と比較して日本での調査・研究結果を報告し、崔先生のご見解を伺いました。

イタリアのヴェネツィアをはじめ、スペインのバルセロナやカナリア諸島、ギリシャやオランダなど欧州で、オーバーツーリズムに対する住民による抗議デモが起こっています。コロナ禍の収束後、有名な観光地に観光客が急速に押し寄せ、ひどい混雑、ごみ投棄、マナー違反などで住民の生活に支障をきたすようになったことを受けて、バルセロナでは「旅行者は家に帰れ」とスローガンを掲げてデモが行われました。

一方、日本でもコロナ禍後に、京都など人気の観光地に外国人観光客が押し寄せ、オーバーツーリズムとしてマスコミが取り上げられるようになっています。

オーバーツーリズム について考える



京都三年坂周辺

01

ヴェネツィアではコロナ後の急増した旅行者によって住民に大きな影響が出ています。

02

住民の暮らしが難しくなる中、ほかへ移住する人が後を絶ちません。

03

ヴェネツィアでは、対策として今年から入場料 5 ユーロを課すことになりました。

ヴェネツィアの現状

【司会】 弊社では、コロナ禍で中断していた海外の大学からのインターンシップ受け入れを再開し、今年 12 月 3 日に羽田～ミラノ線開設の予定もあることから、イタリア・ヴェネツィアにあるカ・フォスカリ大学からヴァレンティーナさんに 2 か月間お越しいただきました。専門は日本文化と日本語ですが、オーバーツーリズムが深刻なヴェネツィア在住でもあり、日本の各地（京都・鎌倉・函館・日光など）へ赴き、オーバーツーリズムについて調査・研究をしてもらいました。崔先生にご意見を伺いたいと思い、対談の機会を設けさせていただきました。

【ヴァレンティーナ】 最初にヴェネツィアの現状についてご説明します。ヴェネツィアは世界的に有名な観光地で、コロナ禍後に観光客が急増し、住民の生活に深刻な影響が出ています。

歴史ある古い街なので道が狭く、人が多くなると歩きづらい、歩けないような状況になります。水上バスもありますが、いつもとても混んでいます。観光客向け宿泊施設に置き換えられて住宅が減少し、家賃は高騰しています。住民向けの日用品や食料品を買うためのスーパーもなくなりました。生活することが難しくなり、ヴェネツィアから出て近くの町に移住する人が増えています。

こうした問題に対応するため、今年の 4 月から土日の日帰り旅行者に対し 1 日 5 ユーロ（約 820 円）の入域料を徴収することになりました。しかし金額が低いことや、日帰り旅行者の多くはイタリア人であることなどから、効果があまり見られません。住民は、こうした対策では問題が解消されないと反対しています。クルーズ船に対しても、宿泊や飲食などの経済的な恩恵が少ないのに混むばかりで、運河の破壊、水質汚染、ごみ問題も起こしていると反対運動が起きています。水難事故もあったことから、今では大型のクルーズ船の入港は禁止されていますが、近くの港には着けるので禁止の効果は少ない状況です。

ヴェネツィアでは、観光客の急増で、住民が住みづらくなり、住民がヴェネツィアから転居し始めています。

オーバーツーリズム について考える



鎌倉高校前の踏切

01

日本での調査で、京都や鎌倉は混雑してはいるものの、ヴェネツィアほどではないと感じた。

02

ヴェネツィアも京都も他にはない特徴のある観光地だが、京都ではヴェネツィアほど混雑が問題にはなっていない。

03

イタリア人の性格は開放的で、よそ者に厳しいということはない。

日本はヴェネツィアほど混んではない

【ヴァレンティーナ】今回日本各地を訪れて、いろいろな関係者にもヒアリングをして、日本はヴェネツィアとは異なると思いました。

京都は、確かに旅行者が多く混んではいますが、広いのでそれほどには感じません。清水寺、伏見稲荷、金閣寺や嵐山は観光客でとても混んでいます。しかし、その場所には住民がほとんどいないので、多くの住民に迷惑が掛かっているわけではありません。こうした観光地に向かうバスなどの公共交通機関は非常に混んでいますが、臨時便や土日のシャトルを運行させるなど対策が取られています。係員が列を整理し、また、宿泊者向けの駅からの手荷物配送サービスもあります。資料に記したように、私は、オーバーツーリズムに至る4段階を想定していますが、京都や鎌倉は第2段階、初期段階と考えています。ヴェネツィアはコントロールが必要な第3段階です。

こうした課題に対してはサステナブルツーリズムの手法によるコントロールに効果が期待できるのではないかと考えています。

【崔先生】日本は深刻とは言えないということですね。

観光・旅行は「特別な消費行動」であると言われます。旅行は限られた時間で行くものですから、ヴェネツィアに行きたいと思ったら少くお金がかかっても行こうとする。イタリアではヴェネツィアが混んでいるからといって、目的地を他へ替えるでしょうか。

【ヴァレンティーナ】ヴェネツィアは特別で、入場料が50ユーロでも行くでしょう。

【崔先生】日本の京都もそこでしか見られず、他に替えようがない。ただし、京都は広いということもあってヴェネツィアのような深刻なオーバーツーリズム状態になってはいないと思います。

ところで、イタリア人は性格的に開放的ですか。

日本のオーバーツーリズムは、ヴェネツィアほど深刻な状況ではないが、対策は講じる必要がある。

オーバーツーリズム について考える



対談の様子

01

オーバーツーリズムは数の問題としてだけでなく、心の問題としてもとらえる必要がある。

02

バトラーのライフサイクルで、ヴェネツィアは危うい状態、日本はそこまでではない。

03

ヴェネツィアで採られている入場料は、解決策として効果が期待できないのではないか。

ヴェネチアで採られている入場料は解決策としては効果がないのでは。

とらえ方の問題

【ヴァレンティーナ】 はい、開放的だと思います。

【崔先生】 開放的な方が多いのに、よそ者がたくさん来ると問題になっている。狭いところに集まるからですね。日本はそれほど集中していない。日本人は開放的とは言えないこともあり、よそ者に対して少し閉鎖的かもしれません。他人が入ってくることを嫌うこともあり、人数がそれほど多くなくても不快に思う場合もあります。それで問題として取り上げられるようになっていく可能性もあります。

一般的にオーバーツーリズムは数の問題として取り上げられがちですが、とらえ方の問題でもあるのではないのでしょうか。

バトラーによる観光地のライフサイクルでは、ある人が街を飾る、それを見た人がそれを広める、そして人が集まり、観光地化する。すると商売人がやってくる、そして賃料が上がると、物価が上がる。これにより住民が住めなくなり、旅行者も来なくなり、街が衰退する。ヴェネツィアは危うい段階、日本はそこまでではないが一部混雑はある。持続可能にするために解決方法はありますか。

【ヴァレンティーナ】 日帰り客から5ユーロを徴収するヴェネツィアの対策は効果がありません。観光客は減りませんが、日帰り客の多くはイタリア人です。住民にとって最も大きいのは住宅の問題です。やがてすべての家が、観光客向けになってしまうかもしれません。高い賃料を払ってもレベルの低い家にしか住めません。住民の満足度は下がり、デモも発生しています。

【崔先生】 先のライフサイクルにおいて、ヴェネツィアはすでにピークにあるのかもしれません。対策が打たれていますが、解決は容易ではないと思います。住民のための対策になっているかどうかの問題です。集めたお金をオーバーツーリズム基金のようにして住民が関与して直接恩恵を受けられるようにする、当該地域を指定して集中管理することが必要なのではないのでしょうか。住民は、自分がかかわることによって被害者意識が薄れるでしょう。

オーバーツーリズムは数の問題としてだけとらえるのではなく、ステークホルダーの心の問題としても考えるべきです。

オーバーツーリズム について考える



鎌倉の大仏は混雑していた

01

ヴェネツィアでは水上バスに乗る際、住民優先レーンが設けられている。

02

住民が優先して扱われることで意識が変わる。

03

すべてのステークホルダーにとっての満足度をあげることが必要です。

住民の意識を変えることが重要

【ヴァレンティーナ】 ヴェネツィアでは2か所の水上バス乗り場で住民パスを見せれば優先レーンを通して水上バスに乗れます。これは2016年に取入れられた対策で、今ではすべての乗り場で必要です。

優先レーンのシステムは水上バスで採られています。バーやスーパーなどでも住民向けに割引パスなどがあれば嬉しいです。

【崔先生】 入場で自由が利かないのは旅行者のせいと思われがちです。それが不満となる。住民が優先して扱われると住民の意識も変わる。すべてのステークホルダーにとっての満足度をあげることが必要です。

【司会】 ヴァレンティーナさんが感じたように、日本の観光地はオーバーツーリズムといっても、全域が混雑しているヴェネツィアなどに比べ、対策もできていて、そこまで大きな問題には至っていないようです。崔先生は、オーバーツーリズムは数の問題としてのみとらえるのではなく、それぞれのステークホルダーの満足度の問題としてもとらえるべきだとおっしゃっています。対策についても、住民に恩恵を感じてもらえるようになれば、効果があるのではないかということですね。

ヴァレンティーナさんは、これからの対策としてサステナブルツーリズムの手法を活用することを提案していますし、これに先生のおっしゃるような住民意識への配慮を加えた対策を講じることで、オーバーツーリズムに対し有効に対処し、持続可能な観光地にできるということかもしれません。

崔先生、本日は非常に示唆に富むお話をありがとうございました。

住民の意識を変えられるような対策が必要です。